

第2学年 算数科学習指導案

日 時：令和5年1月25日（木）5時間目

場 所：2年1組教室

授業者：

1 単元名 『たし算とひき算のかんけい』 全6時間

2 単元について

教材について	児童の実態	研究内容とのかかわり
<p>第1学年「ずをつかってかんがえよう」では、順序数、異種の量、求大、求小の場面で、第2学年「2けたのひき算」では、加法と減法の相互関係をとらえる場面で、○を用いて数量の関係を図に表すことを学習している。</p> <p>本単元では、一見すると加法か減法か分かりづらい問題について、テープ図を活用しながら解決していく。既習内容をもとに、加法や減法の場面をテープ図に表したり、テープ図から読み取った数量関係を式に表したりできるようにする。また、加法と減法の相互関係についての理解も深められるようにしたい。</p> <p>テープ図については、初めて学習するため、第1時で、○の図とテープ図を並べ、同じものを表していることを確認し、数量関係を表す図としてテープ図がより簡単であることを気付けるようにする。</p> <p>本時では、問題場面をテープ図に表して、「部分を求めるときはひき算になる」ということを理解できるようにする。前時までの学習と同様に問題場面から数量関係を明らかにし、テープ図に表すことで問題の構造を明らかにする。テープ図をもとに、立式、求答することでテープ図を演算決定の根拠とする方法を理解できるようにしていく。また、テープ図に表すことの良さや必然性を感じさせ、テープ図を活用して解決させるようにしていく。</p>		<p>導入場面において、何が分かっている、何を求めるのかを確認し、前時までの学習を活かして、「問題場面を図に表して立式すればよい」という見通しをもてるようにする。</p> <p>授業の終盤では、GIFU ウェブラーニングの「きょうのもんだい」に取り組み、理解を深められるようにする。問題場面が変わっても本時の学習を生かして主体的に解決しようとする態度を養うために、支援のためのプリントを用意し取り組めるようにする。</p> <p>指導過程では、問題場面が変わっても、「全体」と「部分」のどちらを求めるかが分かれば演算決定できることを確認し、テープ図を根拠として説明できるようにしていく。</p>

・本単元の目標

加法や減法の場面の数量の関係をテープ図や式に表して捉え、問題を解決することができる。

・本単元で用いる主な見方・考え方

図を用いて場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。

3 単元指導計画（下線部は明確にした「主体的に思考・判断・表現する姿」）

時	学習活動（ねらい）	評価規準 ○記録に残す評価 ・指導に生かす評価
1	<p>テープ図の意味と表し方を理解し、場面をテープ図に表し、数量関係を式に表すことができる。</p> <p>か：ばめんを図としきであらわそう。 ま：<u>テープ図をつかうと</u>、ばめんをかんとんにあらわせる。</p>	<p>○テープ図の意味や表し方を理解し、問題場面をテープ図に表している。（知・技）【プリント】</p> <p>・簡便にかけるというテープ図の良さに気づき、場面を図に表そうとしている。（主）</p>
2	<p>増加の場面をテープ図に表し、数量の関係を式に表すことで、加法と減法の相互関係の理解を深める。</p> <p>か：図を見て、しきを考えよう。 ま：ぜんたいの大きさをもとめるときはたし算になる。 ぶぶんの大きさをもとめるときはひき算になる。</p>	<p>・増加の場面をテープ図に表し、全体を求めるときは加法、部分を求めるときは減法が用いられることを理解している。（知・技）</p>
3	<p>数量の関係をテープ図に表し、加法の逆思考の問題を解決することができる。</p> <p>か：図にあらわして、しきを考えよう。 ま：<u>図をつかって考えると</u>、たし算になるかひき算になるかわかりやすくなる。</p>	<p>○加法の逆思考の問題について、数量の關係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。（思・判・表）【プリント】</p> <p>・テープ図を用いると数量の関係を捉えやすくなることに気づき、学習に生かそうとしている。（主）</p>
4 (本時)	<p>数量の関係をテープ図に表し、減法逆の問題を解決することができる。</p> <p>か：図にあらわして、しきを考えよう。 ま：<u>図をかいて</u>、ぶぶんをもとめるときは、ひき算になる。</p>	<p>○減法逆の減法について、数量の關係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。（思・判・表）【プリント】</p>
5	<p>数量の関係をテープ図に表し、減法の逆思考の問題を解決することができる。</p> <p>か：図にあらわして、しきを考えよう。 ま：図をかいて、<u>ぜんたいをもとめるときは</u>、たし算になる。</p>	<p>○減法の逆思考の問題について、数量の關係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。（思・判・表）【プリント】</p>
6	<p>基本的な内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</p>	<p>・数量の關係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。（思・判・表）</p>

4 本時のねらい

減法逆の減法について、数量の関係をテープ図に表すことを通して、演算決定することができる。

5 本時の展開 (4/6)

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. 問題をとらえる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> リボンが 18 m ありました。何 m か つかいました。 のこりは 7 m に なりました。 つかった リボンは 何 m ですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは 18 m, のこりは 7 m と分かっている。 ・使ったリボンの長さを求めたい。 ・テープ図に表すと式を考えられそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文をテレビに映し、場面について考える。何が分かっている、何を求めるのかを明確にし、使ったリボンを求める式を立てることの見通しをもてるようにする。視覚化 ・「のこり」が分かっていることを確認し、減法かどうか問題を見ただけでは分かりづらいことから、図に表して考えることにつなげる。
	2. 課題を設定する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 図にあらわして、しきを考えよう。 </div>	
考える	3. 個人追究によって自分の考えをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの 18 m は「全体」 ・のこり 7 m は「部分」 ・使った \square m は「部分」だから、ひき算になる。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめの長さ」「つかった長さ」「のこりの長さ」の関係を、問題場面とテープ図で順序立てて対応しておさえる。 ・テープ図の「18 m」「7 m」「\square m」はそれぞれ「全体」「部分」のどちらかを問うことで、演算決定について根拠をもって説明できるようにする。焦点化 ・テープ図をテレビに映して自分の考えを発表できるようにする。 ・テープ図をつかって説明することで、「部分」を求める問題は減法の式で答えが求められること気付けるようにする。共有化
	4. 全体交流によって自分の考えを広める <ul style="list-style-type: none"> ・「部分」を求めるから、ひき算になる。 ・$18 - 7 = 11$ だから 使ったリボンは 11 m。 	
まとめる	5. 教科書のえんぴつ問題に取り組む	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 評価規準 ・数量の関係に着目し、場面をテープ図に表して、演算決定している。 (思・判・表) </div>
	6. まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ぶぶんをもとめるときは、ひき算になる。 </div>	
深める	7. New! GIFU ウェブラーニングに取り組む ①りんごが 40 こなくなっていました。なんこかだったので、24 こになりました。 なんことりましたか。 ②からすが 17 わいしました。何わかとんでいったので、6 わになりました。 とんでいったからすは何わでしょう。 ③りんごが 24 こありました。何か売れたのでのこりは 15 こになりました。 りんごは何こ売れたでしょう。 ④じゃがいもが 41 ことれました。何かあげたのでのこりは 28 こになりました。 何かあげたかをもとめましょう。 ⑤ 25 cm のリボンがありました。何 cm かつかったのでのこりが 16 cm になりました。 つかったテープは何 cm でしょう。 ⑥ ちゅう車場に車が 25 台ありました。何台か出ていったのでのこりが 18 台になりました。 出ていった車は何台でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・①はテープ図で表されているため、あてはまる数を入れて考えられるようにする。 ・②以降は、自分でテープ図に表して演算決定できるようにする。 ・テープ図をかいたり、計算したりできるプリントを活用する。 ・リアルタイム把握で取り組み状況を見て、つまずきの多い問題については全体で確認し、理解を深められるようにする。 ・できた児童は「私の学習状況」から復習に取り組めるようにする。